

Poster | 成人先天性心疾患

## Poster (I-P09)

Chair: Mitsuru Aoki (Department of Cardiovascular Surgery Chiba Children's Hospital)

Fri. Jul 7, 2017 6:00 PM - 7:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:00 PM - 7:00 PM

### [I-P09-03] 成人 Fontan 患者の eGFR 低下の背景

○其田 健司, 浜道 裕二, 若宮 卓也, 松井 拓也, 桑田 聖子, 斉藤 美香, 石井 卓, 稲毛 章郎, 上田 知実, 矢崎 諭, 嘉川 忠博 (榊原記念病院 循環器小児科)

Keywords: Fontan, eGFR, Spironolacton

【背景と目的】 Cr基準値は性、年齢で異なるため、Cr値による直接的な腎機能評価は難しい。Fontan患者では低心拍出量、中心静脈上昇のため腎機能低下を来たすと言われている。成人 Fontan 患者の腎機能を eGFR で評価し、背景因子を検討した。【方法】 対象は2010年～2016年にカテーテル検査が施行された Fontan 患者63人 (19歳～46歳)。日本腎臓学会の GFR 推算式 (男:  $194 * Scr - 1.094 * age - 0.287$  女  $GFR(男) * 0.739$ ) より eGFR (mL/min/1.73m<sup>2</sup>) を算出。eGFR < 80 (mL/min/1.73m<sup>2</sup>) を eGFR 低下群 (n=17) とし、eGFR 低下に関する因子を求めた。【結果】 ROC 解析で eGFR 低下予測の有意な面積が得られたのは年齢 (0.683 : p=0.027)、心拍出量 (0.295 : p=0.017)、心室収縮末期容積 (0.310 : p=0.041)、心室拡張末期容積 (0.332 : p=0.059)、Fontan 年齢 (0.647 : p=0.075) の5因子。中心静脈圧、体動脈圧、心室拡張末期圧、心室駆出率では有効な ROC 面積を得ることはできなかった。無脾症候群、心室形態、強い房室弁逆流でも有意差を認めなかった。eGFR 低下群では、Spironolacton 内服者が有意に多かった (73% vs. 31%) が、ACEI、ARB、Lasix 内服では有意な差を認めなかった。P<0.1 の上記6因子を用いて多変量解析を行うと、eGFR 低下に独立して関与するのは  $Q_s \leq 1.8$  L/min/m<sup>2</sup> (odds 比28倍)、心室拡張末期容積 < 70% (19倍)、Spironolacton 内服 (14倍)、であった。これら6因子の eGFR 低下への説明係数は64%と高値であった。【結語】 今回の検討では、Fontan 成人患者の eGFR 低下に圧変化 (中心静脈圧上昇、体動脈圧の低下) は関与していなかった。心拍出量の低下、小さな心室容積が強く関与しており、成人 Fontan の eGFR 低下は腎血流低下が主な原因であるのかも知れない。また Spironolacton 内服、加齢、遅い Fontan 年齢が関与しており、これらのリスク因子を持つ成人 Fontan 患者では、eGFR の変化をフォローした方が良い。